

ぱれっとスタッフによる 福祉用語解説

●構造化

「構造化」というワードを選んだ理由は、私自身、今年3月よりぱれっとに入職し、入居者の方々と色々な約束やお願いをする場面が多くなってきた中で、通院の時間、イレギュラーなことなど、伝えたい内容がうまく相手に伝わらず、入居者の方に迷惑をかけてしまうことがあったからです。同じような「伝える」場面で先輩の支援をみた時の事です。予定をととても分かりやすく書いたメモを作成し、入居者の方に渡していました。そのメモを片手に自信に満ち溢れた様子で、予定をこなす入居者の姿を目の当たりにしました。伝える場面だけにとどまらない構造化の意識は、支援員として必須に感じました。

●構造化とは？

構造化は、主に自閉スペクトラム症(ASD)の子どもやその家族の支援を目的として開発され、広く世界中で実践されている生活全般における総合的・包括的TEACCH(Treatment and Education of Autistic and related Communication-handicapped Children)で用いられている、特徴的な手続きです。

●時間の構造化

時間の構造化とは、いつ、何をするか、1日のスケジュールや特定の場所で行なう活動などを、何度も確認することで安心感を促すことをねらいとしています。「何が起るのだろう？」という不安や「何か嫌なことが起るのではないか」と考えてしまうことは、イライラの高まりにつながる傾向にあります。全体のスケジュールを提示することで、そのような不安やイライラを予防する

ぱれっとの職員による「福祉用語解説」。今回は福祉用語として若干耳慣れないけれども、仕事の中の様々な伝達の場面で有効な「構造化」について取り上げます。

ことが可能になったり、活動の予測が立つことで安心につながったりする場合があります。

●空間の構造化

空間の構造化は、決められた場所で安心して過ごすことができるように、どの空間(部屋・場所)が何をやる場所なのかを明確にすることが目的です。一般に、「空気を読む」と言われますが、場所と行動を一致させることによって、どの空間が何をやる場所なのかを明確にすることを目指す手続きが「空間の構造化」です。

●手続きの構造化

手続きの構造化とは、手続きを細かく区切り、何をやるかを明確にすることを狙いとしています。耳から得た情報は、記憶に残りにくく、順番を覚えたり、優先順位を決めたりすることは難しいため、手続きの構造化が有効になります。

●おわりに

今回の構造化について、主に3つの方法について紹介しました。いずれも生活の中に密接に関係しているテーマだと思います。日々の生活の中で構造化の知識はとても活躍すると感じました。入居者の方とのコミュニケーションはもちろん、職員間での連絡事項の理解もスムーズになります。

このテーマを取り上げてみて、情報共有の仕方を、経験による場当たりの物ではなく、より効果的で確実なものに変えていける素晴らしい技術だとあらためて感じました。

(ぱれっとホーム職員 山中 譲)